



2014年5月発行

エマオのキリスト

「イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。しかし、二人の目はさえぎられていて、イエスだとは分からなかった。」

(ルカによる福音書 24 章 15～16 節)

今日(4月20日)はイースターです。復活節ともいいます。イースターはクリスマスと同じくらい、いやそれ以上に大切な日です。いま世界中の教会で、数えきれない人たちが「イースターおめでとうございます」と言って、イースターをお祝いしています。でもイースターはどうして大切なお祝いの日になっているのでしょうか。

皆さんはイエス様が十字架にかけられて亡くなられたことは知っていますね。これはとても悲しく、残念で、恐ろしい事件です。イエス様のことを思うと二千年後の私たちでも悲しいのに、ましてお弟子さんたちにとってはどんなにつらかったことでしょう。いま二人の弟子がエルサレムからエマオの町に向かって歩いています。たぶん逃げたのです。エルサレムの町で自分たちがイエス様の弟子だということが知れたら危ないので、遠くに行こうとしていたのでしょう。二人は怖くて仕方ありません。でも、話していることはついイエス様のことになってしまいます。

そんな二人のところに、男の人がそうっと近づいてきて、話しかけました。「あなたたちは、何の話をしているのですか」。

二人の内の一人、クレオパさんが暗い顔をして言いました。「あなたもエルサレムから来ているのに、そこで起こった出来事を知らないのですか。」「どんなことですか。」「イエス様のことです。3日前の金曜日にイエス様は十字架にかけられて死んでしまわれました。私たちはこの方こそ、この国を救って下さる救い主だと信じていたので、本当に落胆してしまいました。…ところが今朝になって、女の人たちがお墓に行ってみると、そこはからっぽでご遺体がないのです。そればかりか天

使が現れて、『イエス様は生きておられる』って言うので、私たちはもう、何がなんだかわからなくなっているんです」。

二人は横にいる人が誰かわかりません。その人は、「やれやれ、どうしてそんなにもものわかりが悪いのですか。キリストは苦しみを受けたあと、よみがえって栄光の体になるはずだったでしょう」、そう言いながら聖書を次々に説き明かしました。二人はその話にすっかり圧倒され、心が燃えるようでした。

やがて3人はエマオの村に着きました。旅館に入り、食事をする時。そのふしぎな人はパンをとって祈り、それを裂いて二人に渡しました。その時、二人はハッとしました。「イエス様だ!」。するとそのお姿は消えてしまいました。でも、二人の中からイエス様が消えてしまうことはありません。二人の心に明るい火がともりました。彼らはもう疑いません。「イエス様は本当によみがえられたのだ。イエス様は生きておられる。聖書を説き明かして下さった時、私たちの心があかあかと燃えたではないか」。

これはとてもふしぎな話です。でも、こういうことが私たちの身に起こらないとは言えないのです。二人の弟子は、いくらイエス様でも死んでしまったらもう終わりなんだと思っていました。それは私たちも同じです。でも、イエス様が死んでそのままになるはずはありません。イエス様は死よりも強いお方です。私たちも死という力の前に負けてしまえば、そこから先に進めないし、隣によみがえられたイエス様がいても何もわからないでしょう。でも、イエス様が心の目を開いてくれる時、全く新しい世界が開けてくるのです。

イエス様に会った二人の弟子は、喜び勇んでエルサレムに帰り、自分たちが見てきた一部始終を語りました。どうか私たちにも、死に打ち勝ったイエス様が会って下さいますように、そしてその喜びをまわりの意気消沈した人に伝えて行くことが出来ますように。

(2014年4月20日の復活節礼拝説教より)

牧師 井上 豊